



復刊第30号

会長就任挨拶

相互の親睦と社会奉仕

会長 三 神 美 和



(就任挨拶をのべる三神美和会長)

五月十三日開かれた第十二回日本女医学会総会は誠に印象的なものでありました。龍先生の肝入りで、ホテル・ニュー・オータニを十分に利用しての豪華さもさることながら、多数の出席

た立派な会の会長に、推薦をうけまし

者、それにもまして活発な討論は日本女医学会の発展のためまことによるこぼしいものであり、又日本女医学会への関心の高まりを示すバロメーターと言え

然しこの伝統ある日本女医学会の会長になりました現実になつて心の迷いは

更に之が国際的にも同じ仲間として各国の女医が互に親睦を深める会として

会の再発足当時はあれで十分であつた会則も会が大きくなるにつれて、十分な箇所が出来て来たことは総会で

戦前早く吉岡先生の創立された長い伝統ある日本女医学会が今次の大戦によって氣息奄々として居りました時、故佐藤やい先生、龍、川那辺の各先生方を中心として再建がはかられ、今日四〇〇〇人の会員をよする大きな会に

こうした親睦の精神は国際女医学会の目的でもあるといえましよう。然しこの上に日本女医学会はやはり何か社会のためにつくすことを考えなければなりません。しかし只今の日本女医学会には

総会後いまだ日も浅く新会長として板につかぬためまともならぬままの気持ちを申述べました。今後三年間至らぬ私を何卒ご援助ご鞭撻下さいませ様心から希つて筆を擱きます。

× × ×

日本女医学会評議員会

および総会記録

久保田くら

昭和四十二年五月十三日十一時三十分、ホテル・ニュー・オータニ雲居の間において開催、両会とも松岡宏子氏司会、総会議長川野辺静氏、副議長佐々木道子氏。

通知発送数二二〇、内、出席五四、白紙委任一五、記名委任一九、出席過半数に達し、会は成立。

龍会長より、会員諸姉の協力のおかげを以て会長としての任期を無事終了出来た事を深謝、なお本日もよろしくとの御挨拶あり。

報告事項

一、庶務報告 三神理事

昭和四十一年度総会員数四〇一七名、本年度入会者一七六名、住所移動九八名、物故者一五名。常任理事会七回、理事会四回、総会は名古屋においておこなわれ、年一回とする、

会員全員起立して、物故会員諸霊に黙禱を捧げる。

二、国際女医学会副会長推薦について、日本女医学会は東南アジア地区よりの副会長候補として、小野春生氏を推薦、なお副会長の決定は、次回総会において決議される予定。

三、国際渉外部を構成

部員として、小野春生、山崎倫子、佐野アヤ子、中村酉子(記録係)の諸氏を依頼。

四、渉外報告 小野春生氏

次回国際女医学会開催地は、ウィーン(一九六八)、次々回はオーストラリア(一九七〇)である。

なお諸外国の女医学会の活動状況として、多くは若い世代の方に対し、経済的援助としては奨学金を、労力の援助としては、結婚後にも医学的活動が連続的に且活潑におこなわれる為に育児、家事等を何等かの形で手伝う、即ち相互扶助ともみるべき、よき活動を実行している向の報告あり。

五、女医の創始者荻野吟子女史の記念碑が北海道瀬棚町に建設されるので資金援助の要請あり、本部会計より拾万円寄付。

議題

一、四十一年度決算報告、別項の通り評議会において、予備費、渉外費等について質問、

阿部委世監事から、会計に相違なき事の証言あり。 決算承認。

二、四十二年度の予算について、

佐藤イクヨ理事

出張旅費、殊に大阪より出席する理事への旅費の支給額が二〇〇〇円である事について、橋本理事(大阪)は、新幹線は六、六六〇円を要する今日、依然として二〇〇〇円は余りにも小額にすぎないか、また各理事に平等に旅費を支給しては如何か、などの意見あり、之に対し真鍋理事は、会の現在の資産高にかんがみて、旅費一部を本部負担にすることにはしないと会の運営に影響する、また、松岡宏子庶務理事は、東海道線の二等の料金を支弁する



(先生諸侯小侯、真倉、龍)の進行(右より)の議事(総会)

出張旅費、殊に大阪より出席する理事への旅費の支給額が二〇〇〇円である事について、橋本理事(大阪)は、新幹線は六、六六〇円を要する今日、依然として二〇〇〇円は余りにも小額にすぎないか、また各理事に平等に旅費を支給しては如何か、などの意見あり、之に対し真鍋理事は、会の現在の資産高にかんがみて、旅費一部を本部負担にすることにはしないと会の運営に影響する、また、松岡宏子庶務理事は、東海道線の二等の料金を支弁する

一任するとの提案に大多数賛成し。

予算可決。

佐藤イクヨ会計理事は、会費納入率良好の広島、佐賀、岡山の各県は、一括納入を實行されている。他県の会員諸氏に対し、納入率よく、且、事務的にも大いに好都合の、一括納入への協力を依頼された。

三、団体生命保険加入の件 龍会長

資産の少ないこの会において、当会に適當な事業計画をすとしても、要する資金問題で実行が不可能の事となる、多忙なる我々としては勞せずして、比較的有利な方法を選び或程度の資金獲得を考えねばならない。右の意味において、団体生命保険加入を最良と考えたわけである。

月掛金一人当り一〇〇〇円、一〇〇〇人の加入により、四百六〇万円の見かえり金があるとすれば一〇九年で五千万円を算定できる。

日本女医学会にふさわしい、格調の高い仕事として、例えば吉岡弥生賞の如きを設立、若い方への研究奨励金を、年間約四百万円程を授与するの案を考え、将来実現出来たらと願っているが如何との説明あり。

評議会においては、会館設立の方がそれよりも先との提案もあった。然し、旧年十一月の理事会では、入会会員が一〇〇〇人に達するならば実行も可と決定。

若い方々の事も考慮に入れ、二分の一を本人に割もどすのは如何なものか

との意見も出た。

これに關し、老若各年代層の考え方の差、一〇〇〇人中の死亡者の数による割もどしの金額の増減など種々の質問あり。

これに対し龍会長より、四十才—五〇才代の死亡者が多く、次いで四〇才、五〇才、六〇才の順であるから、高齢者死亡に伴う損失は余り多くないとの説明が加えられた。



(総会々場於ホテル・ニュー・オータニ)

評議会において、種々の意見はあったが大多数賛成、総会においては評議会におけると同様の意見、質問に加えて、団体生命保険そのものに関する具体的説明をなお必要とする会員も多く、または類似の事業の経験上慎重説を唱える方もあり、結核日本女医学会として加入するならばの具体案を作成し、事業計画等ははつきりうたった上で、賛否を問うべきである。一応支部

で審議して然る後に賛否を決定したい支部代表もあり、さまざま質疑応答が交わされたが、今総会においては決定がみられず「継続審議」となった。

四、会則一部改正の件
松岡理事

第五条、第三項「監事は会計を監査する、但し、理事会に出席し、意見を述べることが出来る。議決権はない」とする。

第五条第一項、内規一の、支部長はの前に、「会長を含まず」を入れる。理事は各同窓会より一五名宛選出する。

第五条、第三項、「常任理事会及び理事会は……」を「理事会は」とする。

承認

五、名譽会員選出の件
吉岡房子、福田幹、大村ひさる氏の三理事を名譽会員とする。

賛成

六、次期会長選出の件
輪番制には反対、各ブロックからの推薦候補を出すにも不賛成、「日本女医学会として最適の人を選ぶ」の案に賛成し、理事会において記名投票の結果三神美和(二)、山本杉六、川那部喜美子(三)、龍知恵子(一)となり、理事会の推薦候補を三神美和氏と決定、評議員会、総会において、東京女子医大病院院長に専念をすすめると云う大阪の橋本理事の発言等があったが、総じて賛成、したがって

次期会長、三神美和氏に決定する。

七、次期総会開催地の件
すでに、広島県支部の内諾を得、

昭和41年度決算報告

自 昭和41年4月1日
至 昭和42年3月31日

収入之部		金額	予算	増減	支出之部		金額	予算	増減
会費		3,196,560	2,600,000	596,560	通信費		401,021	480,000	78,979
内訳	本年度分	1,838,000			消耗品費		3,030	5,000	1,970
	過年度分	909,400			備品費		12,715	30,000	17,285
	前納分	365,400			印刷費		282,270	300,000	17,730
	前納者分会費	83,760			集會費		38,838	50,000	11,162
寄付金		322,000	20,000	302,000	俸給諸給		744,000	800,000	56,000
雑収入		221,856	200,000	21,856	雑費		62,260	70,000	7,740
内訳	名簿送料	32,600			燃灯費		22,000	22,000	0
	預金利息	100,096			国際会費		200,000	200,000	0
	日本女医史	9,160			国際渉外費		141,319	200,000	58,681
	渉外資金	80,000			旅費		53,690	50,000	3,690
					名簿引当金		150,000	150,000	0
					事務所費		240,000	240,000	0
					予備費		193,380	173,000	20,380
					慶弔費		44,605	50,000	5,395
					当年度剰余金		1,151,288		
計		3,740,416	2,820,000		計		3,740,416	2,820,000	

会費納入率 人数48.4% 金額82%

昭和42年度予算表

収入之部	金額	支出之部	金額
会費75%	2,880,000	通信費	450,000
		消耗品費	5,000
		備品費	30,000
		印刷費	330,000
		集會費	100,000
寄付金	20,000	俸給諸給	850,000
		雑費	80,000
雑収入	200,000	燃灯費	22,000
		国際会費	200,000
		国際渉外費	200,000
		旅費	100,000
		名簿引当金	150,000
		事務所費	240,000
		予備費	293,000
		慶弔費	50,000
計	3,100,000	計	3,100,000

昭和41年度資産負債表

S 42. 3. 31 現在

資産之部	金額	負債之部	金額
現金	8,278	前年度繰越金	3,452,950
立替金	42,400	事務所引当金	1,200,000
富士銀行預金	1,150,379	名簿引当金	300,000
安田信託銀行預金	5,592	当年度剰余金	1,151,288
有価証券	4,696,000		
内訳	会費前納		
	37年	443,000	
	38	618,000	
	39	510,000	
	40	327,600	
	41	365,400	
	佐藤やい寄付金	1,232,000	
事務所引当金	1,200,000		
振替貯金	201,589		
計	6,104,238	計	6,104,238

一同候補地に異議なし。
報告事項および議事終了

新会長の挨拶 三神美和氏

はからずも、会長に推され、身に余る光栄である。東京女子医大の内科学の事及び東京女子医大病院々長としての重責をなす自分ではあるが、会員諸氏の温かい御助言を戴き、伝統ある本会を国際的にも立派にしてゆきたいと考えて、万々よろしく。

次期総会開催地広島県支部長高辻マサエ氏から、広島での開催を内諾したが、帰郷して一同が賛成であれば、新米の支部長ながら大いに歓迎する向のお話あり。

その後、本日出席の新入会員、少池、小林、杉本、佐藤の四氏を御紹介、一同拍手をおくって歓迎の意を表す。
四時半閉会。

同席において、茶菓を楽しみ、会議の緊張を解き、夜の会に移った。

記録席からの申す事が許されるならば、評議員会も、総会もなかなか意見活潑、さすが女性の代表の集まりであるわいと舌をまいた。但し欲を出して、一寸悪口をお許しただくとして、もう少し感情抜きだったら、御自身の主義がよりよく他人に理解させ得るのになど、残念に思う発言もありました。両会の詳細を記録してありますが、紙面の都合上抄録させていただきます。

(大田、串田両会員の記録より抜萃)

懇親会

懇親会出席者百四十名
美々しい扇面を散りばめた芙蓉の間

日時……四十二年五月十三日午後五時より
於……ホテル・ニュー・オータニ・芙蓉の間

森 千 鶴



於ホテルニューオータニ芙蓉の間

国会の中心課題についてのべられ

乾杯。(土倉恒副会長の首頭にて) 全会員起立乾杯

会食に入り各支部代表諸女史の挨拶
高辻マサエ(広島県)

来年の総会について会員の方が広島県在住の友人同級生に直接便りを出して協力を依頼してほしい。皆様の満足のゆく様にはり切って皆様のお越しを待っている。

福田幹 日本女医史に心血をそそがれた先生は年を取ったので仕方なくお受け致しましたと、今総会で名誉会員になられた挨拶があった。

哲翁たまよ 卒業後五十年と云われる先生は、長崎県では交通不便な土地ではあるが、会員は心をつっにしてお互い出身学校のことを申しません、皆一丸となって同じ女医同志助け合いゆかに働いている。

窪敦子(高知県)

龍会長への感謝、新会長への期待、各同窓会に限定せず古い会員と新しい会員との調和を取らなければならぬ(歌にあるはりまや橋より二〇〇米のところで開業とのこと)

中田美奈(大阪)
新理事就任の挨拶

森川みどり(愛知県)
総会に出席、活発な発言の場所が用意されていて嬉しい、よりチャージミソグな会になりこの女医学会のレベルアップを考えみちびかれみちびく会であってほしい。



余興豪華絢爛たる吉原花魁道中の面々

延島秀子(茨城県)

女医らしい仕事を通じて世の中の役に立ちたい。

中川富士(東京)
全国よりの参加を感謝、会の発展を嬉しく感じる。

井出ひろ(長野県)
女医会誌を通じて会の発展を喜んで、今後はしっかり頑張りたいと思

山崎倫子(東京)
先年国際女医会に出席して日本に於ける女医の立場、仕事の内容等が国際的に見ても立派である。近い将来

日本に於て国際女医会を開く機会があると思われる。よりアカデミックな会にして行くために役に立ちたい。又若い人達の会員を積極的に獲得すべきである。

中山斐(鳥取県)

中央山脈の裏より参りました。支部の結成はあったが余り活動をしていないので、帰郷したら会員に今日の総会の空気を伝えたい。

長池博子(仙台)

一昨年の総会のおかげで会員相互の親睦の度が強くなり団結は強力である。年々総会が盛んになる様に支部会も盛んである。会自体が持つものを持たなければ何も出来ぬ。仙台医師会で医師年金制度を作り好評であるので、女医会でも検討されて生きているうちに役に立つ制度を研究してはどうか。

橋本恵美子(大阪)

日本女医学会の在り方について、健保問題その他日本女医会は外に向って目をひらいてもらいたい。日本女医会としての緊急動議を提案しては如何か

余興 松葉屋花魁郎中

余興は龍会長心づくしの豪華絢爛たる其当時の代表的「廓」吉原の花魁道中が披露された。好評であった。

一、閉会の辞 大内広子

三神美和(東京)

上映々画についての説明、東京女子医大に於ける欧州旅行計画に希望の方は今月末までに申出られたい。

第十四回国際女医学会の

南米班旅の栞

野見山 和子

七月二十一日、北米班と別れ、ニューヨーク二〇時三〇分発ロッキードコ

ンステレーションに搭乗、快適に飛翔し、機中一泊、リオデジャネロに着陸した。航行中二〇〇〇米以上の高度から見る起伏する山々、広漠たる砂漠、迂曲した海岸線、雄大な空間は宇宙の無限を思わせる。殊に次から次へと変る未知の夜空に淡紅、深緑、或は黒色と変化する多彩の中に、ぽっかりと、煌々と輝く上弦の月を見た瞬間人世の喜びをしみじみとかみしめた。又あの月の世界へも旅する日を期待し科学の力の偉大さに感激を新たにしました。

リオデジャネロは世界三大美港と云われるだけあって昼夜の別なく濃緑の山、紺碧の海の調和は一幅の画である。コルコウアドの丘には高さ三八米の天の一角から舞下りたかに見える神秘的なキリストの荘麗な聖像は到底筆紙に表現の出来るものではない。ホテルは有名なコバアカアアナの海辺にて其周辺のモザイク模様の舗道に足音軽く何回か往復したものだ。また浜辺に日本様のタコを競つてゐる子等の遊びに郷愁を感じ、二世の西岡女医が幾度も朝夕御訪ね下さった未知の国での親切は一生忘れないであらう。椰子の並

木路の植物園には日の暮れるのも忘れて見とれた一行でもあった。パンテアスカルの珍らしづくめの円錐形の山に電車とケーブルカーで登山したが、其の展望は又一入であった。サンパウロでは各門構えが非常に異なつてそれぞれに調和がとれ、土は赤色で日本では想像も及ばない。四十二年

前九州大学内科に居られた武田医師の御夫人に御逢いし、戦時中捕虜となり病院は没収され、戦後毎週土曜に奥地の日本移民の通訳、日曜日は移民の病人治療奉仕、月曜から金曜までサンパウロにて一般治療、正に辛苦の連続であった由、医聖ヒポクラテスは医師の道義について仁は広く恵むこと、心は哀れな人を助ける事であつて単なる技術者であつてはならないとのべ、その精神は脈々と現に武田医師に依つて実証されて居る。この感激を、遠い異國に斯かる篤志家が活躍して居られる事をお伝えしておきたい。

ブータン蛇研究所は医師ビタル・ブラジル博士の自費で設備され現在州政府の経営で毒蛇の毒より解毒剤を作り死亡率は八〇%減少したと聞く。曾って台湾にも此の種の研究所があつたが今はいかにと、ふと心に浮んだ。

ブラジリアは荒漠たる砂漠の中に偉大な新首都建設が政治家、科学者および知識人からなる創造的な「ルシオコスタ」の案によつて「オスカリーニマヤヤー」が現在悠々と建設しつゝあり、いづれも只々奇想天外に満ち溢れていた。折よく堀領事に御逢いでき、移民も技術者であれば必ず成功すると力強い御言葉をうかがつた。若い勇気ある有能の人はどしどし移民して開発に協力せられる事を切望する。

アルゼンチンのブエノスアイレスは小公園が多く青々とした憩の場が如何にものびやかに感じられたが、雨にさえぎられ充分な見物も出来ず楽しみのタンゴも歌ばかりで心残りであつた。メキシコ市内は整然として美しい花壇や噴水があり、街路樹で彩られエキゾティックな様子に満ち満ちて居た。出発前聞牛見物が話題となり、賛成組と反対組とあり、筆者は反対だつた。赤坂氏、森川氏と共に知人の招待で「パリの世界民族舞踊コンクール」で大賞を得たバレエソオルクロロコを見物した。又市より南方のソチミルコで色とりどりの生花で飾つた異国情緒豊かなゴンドラで舟遊びを満喫したのも楽しい思い出の一つである。

翌日は赤坂氏、森川氏および山崎氏と市より北方五〇年の所に近年発掘されたアメリカピラミット「テオテイワカン」は先住民テオテイワカン族によつて西紀前三〇〇〇年より十世紀頃に築かれたものと云われて居る。エジプトのピラミットとは違つて、信仰上太陽

や、月を礼拝する拝殿であつたのと、又近くの大なる石窟の中で昼食をとつたのも異國の旅なればこそであつた。

此の国では一九六一年大統領令で国家児童保護局が創設され、当初は貧困者の子弟の援助が目的だつたとか、現在は出席率と体格改善給食が主で、大統領夫人の指導の下に活動されている由。我國に於ても次代の児童育成に一層の努力を必要と痛感した。

此の度の私共一行は北南米の医学を主とした駆け足視察で医療施設及び研究、文化、芸術、風物、史跡、人情等を見聞して自國があつた戦乱の廃墟を乗り越えて今日に復興、前進して、世界第一線迄への努力をふりかへり優秀な民族である事を痛感した。

輝く東京の夜空から優雅な自國の山や海をみつめ、思いきり空気を吸つた時今更の様に日本人である誇りを感じ、将来への希望に胸は一杯で、迎えて下さつた方々に言葉さへ出なかつた。多謝多謝。

フィリッピン女医学会の副会長、ベルモンテ、クニガン先生をかこみ五月三十一日、午後六時半より榛山荘で夕食会を行いました。

フィリッピン女医学会副会長、ベルモンテ女史を迎えて

小野 春生

フィリッピンには女医が約三千名、男医との比率は十四対三位ださうです。フィリッピン女医学会には千人加入しているとのこと。しかし女医の決断力は強くフィリッピン医師会の副会長を女医学会のクレメンテ先生に当選させたといつていらつしやいました。本部は支部へ月に一回会員のスペシ

ナリストを送り、学術講議とかコンサルテーションや手術を行うさうです。この講議の評判は各地の医師会より良く、その地区の男医も参加するとのこと。総会は年に一度秋にございますが、春には学術会議をマニラで行い、支部より二名づつ参加する様本部より旅費を出し、帰つたら支部で報告、すなわち再教育をする様になっているとのことでございます。

その他、貧民家庭の小児にミルクを、又無料診療を行っているとのこと。このために米女医学会から資金が来るとのこと。

私共としてうらやましいことはマニラに、フィリッピン女医会館を立て、そこで無料診療を行い、又働く貧民の母親のために託児所をつくり、女医会員にはスマートになるためにレクリエーションセンターを行っているとこのとでございませう。その本部に女医を一人やとい、看護婦その他の給料は政府より支給されている様です。会館の土地は政府の寄付であつたせうです。建物は女医会で、タカラくじをしたり、ビンゴ、マージャン大会で資金を集めたせうです。

「招かれた今日はフィリッピン女医会の十八周年記念日にあたり、日本女医会のメンバーのみならず、ごやかな一夕を共にしたことを、マニラにもどりまして皆に伝えます。又日本の皆様どうかマニラへいらっしやうって下さい。」とにこにこしながらお帰りになりました。

私と致しましては、先日総会で御発言がございましたように、日本女医会の皆様にこのような会を開くときお呼かけ致したいのですが、今回もお客様が東京に到着されてから予定表を伺って急に開催致す始末なので、各県支部長にお呼びかけする時間がございますんでした。そこで外人をかこんでの会に参加希望の先生方は、日本女医会本部にお名前をお申出下されば何とか御連絡申上げられるのではないかと存じます。ただし突然お知らせ致すことはやむおえませんのでお承知おきいた下さるごときでございます。

日本女医会新役員

- | | |
|-------|-------------|
| 会 長 | 三 神 美 和 |
| 副 会 長 | 小 俣 喜 久 子 |
| 理 事 | 川 那 郡 喜 美 子 |
| | 土 倉 恒 |
| | 松 岡 宏 子 |
| | 阿 部 秀 世 |
| | 出 田 艶 子 |
| | 大 内 広 子 |
| | 近 江 久 子 |
| | 木 原 シ ゾ 子 |
| | 栗 原 久 子 |
| | 佐 藤 イ ク ヨ |
| | 柴 田 洋 子 |
| | 白 橋 美 笑 |
| | 東 条 一 子 |
| | 富 山 艶 子 |
| | 中 田 美 奈 子 |
| | 野 口 登 志 子 |
| | 橋 本 恵 美 子 |
| | 福 永 ひ ろ 子 |
| | 藤 本 佐 賀 枝 |
| | 真 鍋 昌 子 |
| | 南 春 枝 |
| | 柳 瀬 路 子 |
| | 山 崎 倫 子 |
| | 湯 本 ア サ |
| 監 事 | 松 井 と し |
| | 石 田 妙 子 |
| | 上 田 葉 |
| | 大 原 一 枝 |
| | 小 野 春 生 |
| | 久 保 田 くら |
| | 五 島 達 智 子 |
| | 佐 野 ア ヤ 子 |
| | 島 津 フ ミ ヨ |
| | 杉 田 合 |
| | 戸 田 静 子 |
| | 中 川 富 士 |
| | 中 西 清 子 |
| | 野 呂 幸 枝 |
| | 福 田 貞 |
| | 藤 村 ナ ミ |
| | 古 沢 サ チ |
| | 丸 山 芙 実 |
| | 森 千 鶴 |
| | 山 口 三 重 |
| | 山 本 杉 |
| | 龍 知 恵 子 |
| | 鈴木 文 子 |

(敬称略・五十音順)

御逝去

会費十カ年前納者(敬称略)
 小野田加津 亀井千代 渡辺エハ
 野原カズ子 石本スミ 岡田トモ
 渋谷富美子 石川たみ

ご冥福をお祈りいたします。
 東より(前埼玉県支部長)
 四二・五・二六 死亡
 各県、各区支部長の先生は会員死亡の際は必ず本部にご一報願います。
 ○住所変更の届出。
 今秋名簿を発行いたします。
 総会のご返信で住所移動のご連絡を三百余通頂きましたので懸命に訂正しております。学位有無、電話番号、住所表示等未だ届出てない方は至急お知らせ願います。
 ○会費十カ年分(老万円)送金にご協力願います。前納分を学校債に預け入れ、本部会計の大なる資源となっております。
 ○日本女医会誌へ御投稿をお待ちします。

内容自由
 枚数一四百字原稿用紙三枚程度。
 昭和四十二年六月十日印刷
 昭和四十二年六月二十五日発行
 編集人 福田 幹
 発行人 日本女医会
 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
 印刷所 東京都港区麻布田島町63
 興栄美術印刷株式会社

題字 吉岡 弥生

* 今度のお正月は……

SAN FRANCISCO
LOS ANGELES
HONOLULU

で過しませんか？

会 員 募 集 !

費用：29万9,000円でお小遣い以外の全てが含まれています。

期間：12月29日より1月14日迄

申込先＝名鉄観光サービス(株) 東京航空営業所 TEL(535) 5331

主催＝名鉄観光サービス(株) 東京都中央区京橋3ノ11番地(松平ビル内)



詳しい案内書御希望の方はこのマークを切り取りお送り下さい。